

令和5年8月1日

## 【巻頭言】

(理事長 野々村好三)

毎日猛暑が続いておりますが、皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

6月の総会で理事・監事が選任され、新たなメンバーを加えての理事体制となりました。引き続き、ご指導・ご鞭撻くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

さて、9月には4年ぶりの会場開催となる「教点連セミナー」を東京で開催し、「情報」を取り上げることとなりました。SNSやWeb、プログラミングなど情報分野は視覚障害者にとって高いハードルになる可能性をはらみつつも、それらの技術を子ども時代からうまく身に付けて活躍しておられる方も多くいらっしゃいます。視覚障害のある児童・生徒がICTを上手く味方に付けられるよう、私たちは点字教材提供の立場からサポートしていければと思います。セミナーで皆様とお会いできますことを楽しみにしております。

## 【令和5年度 総会書面議決報告】

今年度総会については、令和5年5月27日（土）にオンラインによる総会議題の説明会を開催し、その後書面議決を行った。

議題：(1) 令和4年度事業報告（案）について報告があった。

(2) 令和4年度決算（案）・監査報告について報告があった。

(3) 役員改選（令和5年度～6年度）について、退任、新任、留任役員の紹介があった。

※本紙末尾に役員名簿を掲載しております。

(4) 定款変更について説明があった。

(5) 令和5年度事業計画（案）および予算（案）について

(6) その他

事前説明会を受けて書面議決を行い、過半数を超える会員の賛同を得られたため、全て可決された。

## 【令和5年度 第1回（通算36回）セミナーのご案内】

「児童・生徒が理解しやすい点字教材を届けるために」

～『情報』の教科書から考える～

日時：2023年9月16日（土） 13：30～16：30

場所：新宿リサイクル活動センターA・B会議室

東京都新宿区高田馬場4-10-2 TEL：03-5330-5374

交通：JR山手線、西武新宿線、東京メトロ東西線

「高田馬場駅」西側、徒歩3分

講師：山賀信行氏（NPO法人スラッシュ副理事長）

今回の教点連セミナーでは、「情報」の教科を取り上げます。高校では「情報」が2003年度に必修科目となり、昨年度からは「情報Ⅰ」として再スタートしています。また、小中学生にもタブレットが配布されるようになりました。ますます情報リテラシーの重要性が高まる今、それらを点字教材で理解するにはどのような配慮や表現が必要なのかを探ります。「図を分かりやすく伝える」など他の教科にも共通する点も多く、情報分野の要素が他の科目でも取り上げられるケースもあります。中学の「技術」、高校の「情報Ⅰ」の点字教科書製作にかかわられる方はもちろん、それ以外の科目に携わっておられる方とも一緒に考えたいテーマです。

講師の山賀信行さんは、NPO法人スラッシュでICT指導に従事されているほか、日本点字委員会発行の『数学・情報処理点字表記解説 2019年版』では第3部を担当、また、視覚障害者のネットアクセスへを支援する下記Webサイトを運営されています。

やまさんの森 <https://yama3nomori.jp/>

4年ぶりの会場開催となります。皆様、ぜひご参加ください。

### プログラム

13：30 開会挨拶

13：40 講演「児童・生徒が理解しやすい点字教材を届けるために」  
～『情報』の教科書から考える～ 山賀信行氏

15:00 休憩

15:15 質疑応答と意見交換

16:15 まとめ、諸連絡など

16:30 閉会

対 象：本会会員、点字教科書・教材製作に携わっておられる方、ご関心のある方

定 員：先着60名

参加費：会員500円、非会員1,000円

お申し込み・問い合わせ：8月末日までに、氏名、所属、メールアドレス（お申し込みいただいたものと同じ場合は不要）を下記宛てにお送りください。

本会代表アドレス：info@kyotenren.org 担当：山岸

お申し込みから数日以内に返信メールをお送りいたします。

## 【令和4年度 第3回（通算35回）セミナーのご報告】

テ — マ：「小中学生にわかりやすい点字教材を届けるために」

～副教材製作の現場から～

日 時：2023年2月25日（土） 10：00～11：30

開催方法：Zoomオンライン（ライブ）

おはなし：濱崎雄三氏（大阪市立早川福社会館点字図書室）

山本有美子氏（パソコン点訳会）

参 加 者：100名

教科書点訳連絡会の取り組みは点字教科書のことですが、実際の教育現場では副教材も授業の中で多く使われている現状があります。その副教材の点訳がまだまだ不足していたり、製作上の課題がたくさんあるということで、今回、副教材をテーマに取り上げました。

まず濱崎さんからお話しいただきました。

濱崎さんは先天性の全盲で点字使用、中学までを盲学校で、高校・大学を地域の学校で学び、職業訓練を経て、10年前から大阪市立早川福社会館点字図書室で点字製作担当のお仕事をされています。

高校では初めての視覚障がいの生徒でしたが、教科書や必要なものは点字で準備され、教材比率は、教科書半分、副教材半分。各教科の先生とは読み上げソフトを使ってメールで直接やり取りし、学ぶ環境を整えてもらわれていました。また全盲の先生がおられ、先生を経由してボランティアの方に点訳をしてもらったり、全部を点字ではなくパソコンも併用したらよいとアドバイスを受けたので点字ディスプレイを活用されるようになりました。数学は半分以上を1対1の授業で、半分以上をクラスで勉強したこともあり、現国の漢字の書き取り問題では、その漢字の含まれた語句を作りなさい、意味を説明しなさい、などの問題に差し替えられ、他の生徒と同じ時間に小テストを受けるという配慮もなされていました。

現在の点字図書室には昼のグループ・夜のグループ合わせて160名の点訳ボランティアがいて、2017年度から複数校のテストや副教材の点訳を、個人からの依頼という形で

用紙代以外は無料で受けられています。高学年が多く、毎月の国語・算数・理科・社会・英語のテスト問題や副教材の国語・算数のドリル、夏休み・冬休みの宿題の点訳もされています。

小学生の場合、先生と小まめに電話でやり取りし、原文どおりの点訳ではわかりにくいので、先生がこの問題はこう差し替えてなどと書き込みをしたり、点訳ボランティア側からも変更点のメモを付けて納品されているそうです。

中学生の教材は今年度から始め、量が多いので、期間等の関係で受けられないこともあるそうですが、主に国語・数学・英語の副教材、またチャレンジテストの問題等を点訳されています。

地域の学校で学ぶ生徒は最初、点字は苦手でも点図はおもしろがって触るので、エーデルをできるだけ入れてほしいそうです。点図から入って点字を学んでいくこともあるからです。そのために、ボランティア対象のエーデル講習会も開かれています。

テスト問題は製作スケジュールがタイトですが、特に最近は郵送にも時間がかかるため、スキャナーで撮ってPDFのデータでやり取りし、製作日数を少なくする工夫もされています。生徒の希望を直接聞くのは難しいですが、先生や親御さんから聞いて改善していくこともできるのではということです。

原本のデータがもらえるとよりよいのですが、先生が原本に書き込まれる場合が多いので、一概にデータがあればよいとも言えないかもしれず、また先生とも連絡は電話に限られるので、深い所まで相談しにくい面もあるそうです。

課題としては、ボランティアの確保が難しいことと、教材点訳に力を入れている他団体の情報が得にくいことを挙げられました。テストや副教材に特化したネットワークがあると、先生や教育委員会、点字使用者や点訳者がお互い交流でき、重複教材の情報も先生に提案できます。

また、新しい教材点訳のボランティアを育てるには、すでに点訳されているデータで勉強するのもよいのではということです。

高校になってから漢字の形を伝える必要があるかという質問には、形からは難しいかと思うが、同音異義語等を音声から勉強するといいかもしれない、ただ、小学生のドリルでは、上にエーデルで大きめに漢字を書いて意味などを下に記すものも作製するが、使い方やその字の意味を知るには大事な役割があると思うということでした。

次に山本さんにお話しいただきました。

パソコン点訳会は大阪府池田市に2011年に発足し、会員は5人。山本さんが学校でプリントを点訳するお仕事をされているので、その学校からの依頼を受け、小学校の教材や8年前からは中学の副教材・問題集も手掛け、今年度は中2の理科・数学、中3の理科3冊・数学2冊の7冊と理数の定期テストを点訳されました。今年度から市町村から頼まれる点訳は有料とし、またプライベート点訳では中学の塾の問題や市販の問題集の点訳もされています。

学校から出版社にテキストデータの提供を依頼したところ、7冊のうち5冊もらえたそうです。テキストデータがないものは、スキャナーで撮りgoogleドライブにかけてテ

キスト化し、自動点訳を。先生からはデータでの提供がほとんどなので自動点訳にけることができます。

また、関連した教科書・テスト・問題集は同じところが製作すると生徒もわかりやすく、生徒にはデータと紙の両方提供できるとよいということです。

図は全盲の方に触読してもらい改善されているそうです。例えば大点と中点が接近しているとわかりにくいので大点の前後の中点を抜いて大点を際立たせる、墨字で塗りつぶしてあるところを点図でも塗るとわかりにくいのでできる限り塗らないなど。生徒に触ってもらって対話することも大事だそうです。

他に、漢字学習では、低学年は漢字のしくみを勉強するためにもレーザーライターで書いてみるとよい、また、漢字ドリルに載っているクイズなど、提供する方は全部点訳するのが基本だと思っている、図は文の後、注は最初に書いてから図を入れている、数学・理科は片面で作製している、とのこと。

課題としては、市教委が点訳ボランティアをなかなか探しづらいので、点訳を相談したりコーディネートする窓口が必要だと思う、重複点訳を避けるためにも情報交換する場になる、一方、市教委にも先を見据えた点訳料の予算化をお願いしたいとのこと。

パソコン点訳会では、初めて点訳する人には宿題として持ち帰ってもらい、月2回の集まりで読み合わせや相談・校正をしている、初めてのグループもまず引き受けてやってみて成長していく、第一歩はどんどん踏み出していくことが大事だと思うということでした。

濱崎さんには、教員との連携の大切さ、ニーズが多様化していてとりわけ点図に対する需要が多くなっているというお話を伺いました。山本さんからは、最近では問題集のデータを入手できると伺い、喜ばしいことだと思います。点訳者が減っている中で、点訳者の貴重なパワーをより有効に活かしていただくためには、できる限りの省力化を考えないといけません、原本データの活用もその一つです。少し余裕ができた分を専門点訳やよりわかりやすい点図の作製、より読みやすい書式形成に、知性・感性を振り向けていただければ、よりよい点字教材を提供いただけるのではと期待しています。

濱崎さん、山本さん、貴重なお話をありがとうございました。

## 【理事会報告】

### ●令和4年度 第7回理事会報告

日時：2023年1月28日（土） 13:00～15:00

場所：オンライン

以下の内容について話し合いました。

1. 2月の第3回オンラインセミナーについて
2. 令和5年度総会までの流れについて
3. 令和5年度の予定について
4. 今後の取り組みについて

### ●令和4年度 第8回理事会記録

日時：令和5年3月18日（土） 9:30～12:00

場所：オンライン

以下の内容について話し合いました。

1. 令和5年度総会資料の確認
2. 令和4年度会計報告・決算、令和5年度予算について
3. 役員改選について
4. 次号の教点連ニュースについて

### ●令和5年度 第1回理事会記録

日時：2023年4月8日（土） 9:30～12:00

場所：オンライン

以下の内容について話し合いました。

1. 令和5年度の役員体制について  
山本さんに理事に加わってもらい、事務局次長としてお願いし、承諾いただいた。  
長岡氏から退任の意向があり、承諾された。なお、日点の田中氏は理事を継続する。
2. 令和5年度総会資料、および、書面議決までのスケジュール確認
3. 点字考案200周年記念推進実行委員会の状況報告  
教科書点訳連絡会として申し込んでいた、アメリカで行われる [Get in Touch with Literacy] に、発表者として参加できることになった。これから準備を進めたい。なお、奥野が参加することになった。
4. その他

●令和5年度 第2回理事会

日時：2023年6月10日（土） 13:30～16:00

場所：オンライン

以下の内容について話し合いました。

1. 役員・理事の体制について

今年度より、視覚障害者支援総合センターの川元茜さんと、地域の学校で学ぶ視覚障害児(者)の点字教科書等の保障を求める会の山本有美子さんが新しく理事として加わった。

理事長として野々村好三理事、副理事長として加藤俊和・藤下直美両理事が互選された。

2. 総会書面議決書の提出状況について確認

書面議決書が未着の会員に至急奥野から連絡する。

3. 文科省とのオンライン懇談会の報告について

5月23日（火）にオンラインで行った、文科省教科書課との懇談会について報告を行った。

今回の趣旨は、徐々に専門点訳を担える人が減っていくことを懸念し、人員を確保するため、教科書点訳の単価引き上げを申し出た。

4. 今年度セミナーの開催について

第1回目：2023年9月16日（土） 午後 東京で開催。詳しくは案内を参照。

第2回目：12月にオンラインで開催予定

5. 教点連ニュースのスケジュールと内容について

6. 点字200周年記念推進実行委員会の動きについて

7. その他

以上

## 【令和5・6年度 役員名簿】

※役職名	氏名	所属
理事長	野々村 好三	地域の学校で学ぶ視覚障害児(者)の点字教科書等の保障を求める会
副理事長	加藤 俊和	
副理事長	藤下 直美	名古屋ライトハウス 日々の暮らし相談室
事務局長	奥野 真里	日本ライトハウス 情報文化センター
事務局次長	山本 有美子	地域の学校で学ぶ視覚障害児(者)の点字教科書等の保障を求める会
理事	田中 徹二	日本点字図書館 会長
理事	込山 光廣	
理事	鈴 和代	
理事	池村 豊子	桑名点訳会 会長
理事	川元 茜	視覚障害者支援総合センター
監事	牟田口 辰己	
監事	三上 洋	地域の学校で学ぶ視覚障害児(者)の点字教科書等の保障を求める会

発行日：令和5年8月1日

発行所：NPO法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：野々村好三

ニュース発送元：（社福）名古屋ライトハウス法人本部

〒466-0855

名古屋市昭和区川名本町1丁目2番地

本会E-mail：[info@kyotenren.org](mailto:info@kyotenren.org)

振込口座番号：00180-7-262151

口座名義：全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会


